

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300162		
法人名	有限会社たつみ		
事業所名	グループホームほっと		
所在地	愛知県瀬戸市宮里町27-1		
自己評価作成日	平成30年 9月23日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ligvosyoCd=2392300162-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;ligvosyoCd=2392300162-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年10月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の散歩はもちろん、利用者様には風、太陽、花の匂いなどを感じて頂けるよう。なるべく外に出掛けるようにしています。また近所の商店街の催し物や瀬戸物祭りなどで買い物をしました。当ホームはメニューを決めていないので利用者様の食べたいモノを聞いたり、行事食は少しご馳走を作ります。おやつはなるべく手作りのものを出すようにしています。利用者と一緒におやつを作ることもあります。お彼岸にはおはぎを作りました。利用者様には馴染の美容院や行きつけの病院などがあり職員が付き添っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者にとってホームが「家ではないが家、家族ではないが家族」という存在になるように、利用者らしい毎日をチームケアで支えている。職員が明るく楽しみながら働くことは利用者の笑顔を増やすこと、と管理者は考えており、職員も同じく実践をしている。積極的に利用者とかかわり、利用者のその時の思いを叶えようと知恵を出し合い、利用者や家族の喜びを増やそうと努力をしている。また、ここなら大丈夫と信頼されるホームを目指しており、身体拘束など不適切ケアについても研修を重ねている。外出も多く、近くの商店街への買い物や散歩時に地域の人々と挨拶を交わす等、地域に根差したホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「普通の家で生活し楽しい人生を送る」を職員全員が周知し、利用者ひとりひとりに向き合いながら安心して生活して頂けるよう支援しています	職員は理念を共有し、利用者が自分らしく普通に楽しい生活を送れるように支援している。利用者のその時の思いを大切に思いを実現するためにできる限りのサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等で顔を覚えて頂いたり近くの夏祭りに参加しました。運営推進会議は利用者も参加し地域の方に見て頂いている	自治会に加盟し、祭りの神輿の来所や町内運動会の見学など積極的に行事に参加している。保育園が散歩コースにあり園児と挨拶を交わしたり、商店街へ買い物に出掛ける等地域に根差した交流をしている。	地域との付き合いを広げようとボランティアの訪問受け入れを考えている。今後期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターと協力し認知症サポーター養成講座を開き職員全員が講座に参加した。地域の方も沢山参加されていました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族も出席され2か月分の活動報告や意見交換など楽しい雰囲気で行っている	行政、地域代表や家族の出席があり、活動報告や目標達成計画を議題としている。意見から服薬の勉強会を実施する予定である。年6回開催の内2回は家族会を兼ねておりホームへの理解の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席があり、その都度ご意見や相談、指導など受けている	行政担当者は会議に必ず出席し助言等をしている。市から研修案内があり、可能な限り参加している。地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回職員会議での社内研修で身体拘束廃止に向けての研修を行った。9月の社内研修はグループホームの指定基準を学んだ	職員会議にて、身体拘束と虐待防止の研修を実施し、理解を深めている。職員は正しく身体拘束をしないケアの知識を持ち、身体拘束ゼロの努力を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待の防止について学び、管理者や職員ひとりひとり自覚して職務についている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回は権利擁護について社内研修を行っている今の利用者がこの制度を使っている人はいないが、今後増えると思うので職員も知識を持つようにしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には必ず本人家族に同意を得ている。特に看取りに関しては、誤解が無いよう説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者はその都度要望などあったら極力実現できるようにしている。家族は訪問時やメール等で意見交換や要望があれば改善していく	来所時の要望や意見聞き取りの他、電話やメールで相談や報告をしている。またホーム便りを定期的に発行している。家族には利用者の日々の記録を開示して、意見を聞き取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やその都度問題が生じたら代表者、管理者を交え個々の意見も尊重している	管理者は職員の意見や提案に耳を傾け、率先して行動し明るい職場となるように対応をしている。また職員も管理者と意見交換や相談をして職務にあたっている。職員の意見は管理者から代表者に伝えられている。	職員の意見を反映したホームづくりを邁進するために外部研修などへの参加で引き続きの人材育成を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時々ではなく少しでも時間を設け職員の思い大変さを感じてほしい。管理者は職員を代表して意見要望等上にあげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修予定に従って社内研修を行っている。社外研修については、その都度職員に薦めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸介護事業者協議会にはなるべく出席するようにしている。グループホーム部会はあまり機能して		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が困っているとき「どうしよう」「どうしたらいい?」と言う言葉を聞いたときは出来るだけそばにいたり話を聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が頻繁に来て下さる方はその都度要望等聞き、来られない家族に対しては電話やメール等でお知らせをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの生活リズムに合わせるのではなく、まずは自宅での生活を尊重する。徐々に慣れて頂くようにしている。絶対に無理強いはしない。自宅での様子や好きなこと嫌いなことをアセスメントする		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほっとは施設ではなく、「自宅ではないが自宅のように、また家族ではないが家族のように」と職員全員がこの思いをもってケアしている。人の世話にはなりたくないという人には「お手伝いします」と言う		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いや願いを聞きそれを理解したうえで家族のようにまた、人生の先輩として、今までの人生を認め尊敬していく姿勢を見せていく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居まじかは住み慣れた家には許される範囲で連れて行ってあげたい。行きつけの美容院や病院には職員と一緒にいきます	家から持ち込んだ植木の世話や畑の苗を買いに行く、手先が器用でこまめに作品作りをする、歌を歌う等、その人の今までの暮らし方をホームでも継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席は気の合う人同士で座っている。トラブルを避けるためと会話が弾むため。職員は利用者同士のトラブル時などは間に入り本人の話を聞くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	散歩や買い物などで声をかけてくださったり、ホームへも顔を出してくださる。退所され病院を転院された利用者のお見舞いに行った		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人が上手く「こうしてほしい」と言うことが難しい人には表情や仕草などで察している	意向や要望を伝えることが難しい利用者には、言葉の端々や表情などから推察して対応をしている。利用者の思いにはできる限り向かい合い、実現に向けて職員間で話し合いを行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に独居で生活されていた人には食事面に配慮をしている。衣類の着替えなどにも注意している。入居時には必ず好きなこと、嫌いなこと、好きな物、嫌いな物など聞き取りをしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の年齢や健康状態、根気のある人、などに合わせ支援している。昼寝をしたい人は居室で休んでもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の考えや意見を聞き、頑張る目標ではなく好きなことが継続できる目標を立てている。必ず本人家族と作っていく。それを3か月ごとで評価している。	毎月、介護計画に基づいた支援について会議を行なっている。概ね半年、または変化時に介護計画の見直しを行なっている。利用者の希望や意向を叶える介護計画となるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録は利用者が話した言葉で書くようにしている。毎月の職員会議で各利用者の様子を話し合いケアプランにあげていく。見直しするときには担当者会議を開く		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診は基本的には家族にお願いしているが、ほぼ職員が通院介助している。職員の負担は大きい。外出や散歩を希望されるかたには出来る限り実践している。1日2回散歩をする方もみえる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの商店街の催し、祭りなどあれば参加するようにしている。散歩時は公園、神社など四季折々の景色を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	耳鼻科、眼科、歯科、皮膚科など馴染の病院に通院介助しているが職員の負担は大きい。認知が重症化しているので家族での通院も難しくなっている	ホーム主治医の毎月の往診があるが、他科や以前からのかかりつけ医は家族と協力して通院の支援をしている。また訪問看護師の週1回の訪問がある。薬局が薬の管理をしているがダブルチェックで事故防止をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師が常駐していないため週1回訪問看護ステーションと契約している。24時間の緊急対応しているため夜間でも安心できる。介護職員の相談、指導もありがたい		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医の情報提供、退院まじかにはソーシャルワーカー家族、主治医、ホーム担当者などを交え担当者会議を開く		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度で2件このような事例があったが、なかなか難しい面が多々あった。本人、家族、病院側と考えの違いに管理者が心を悩ますこともあった。ホームの考えは「口から食べられなくなったら・・・」終末期にかな？との思いもあります	医療について医師や看護師と相談をして、ホームでできることを家族に伝え、対応を話し合っている。看取りへの心構えとして研修や看護師からの助言などがあり、利用者や家族の要望に対処できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは必ず熟読しサインをするようにしている。年間研修予定には緊急時の対応について学んでいる。今回は高齢者に多い状態と症状、利用者が普段と違う気づきについて学んだ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間数回の避難訓練をしている。1回は消防署への実通報を体験する。新任職員には必ず新任研修の中に防災訓練を行う。夜間想定での訓練も夜勤者が勤務の時に行っている	夜間想定で実通報の訓練を家族が見学する中実施された。台風時に各居室に懐中電灯を置いたり、緊急時に救急車で搬送される場合の連絡シートを作成する等、いかなる災害時でも対応できるように訓練をしている。	災害時の地域との具体的な連携に取り組むと共に備蓄の充実を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴時はもとより、居室に訪室するときにはノックをして「失礼します」と声掛けをしている。何事も無理強いせず、時間をあけて再度試みるようにしている	利用者の気持ちを推し量り、声のトーンに気を付けて話している。利用者の話しにはじっくりと相槌を打ちながら聞いている。目線を合わせて穏やかに接するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「ナフコに花の苗を買いに行きたい」「野菜の水やりをしたい」「外の空気をすいたい」など様々な要望が毎日あります。職員は大変ですが、出来る限り叶えていきたいと思えます		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほととの職員全員はやさしい思いをもっています極力利用者の思いをくみ取り毎日生活しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容を利用しています。利用者のひとりが入居前からの行きつけの美容院に行かれています。入浴時など、自分で決められる利用者は職員と一緒に準備して着たい服を選びます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは決めていないので、一応利用者に食べたいものを聞きますが、ほとんど「なんでもええ」とのことが多いです。時には笑いながら「うなぎ」との声も聴かれ、そのやりとりだけでも楽しくなります。おやつは手作りを心がけています	旬の食材を使って体に良い食事を提供している。リンゴや玉ねぎの皮むきや味見、配膳や下膳、食器拭きなどの手伝いは利用者の力量に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量はその人で違います。小食の人に沢山盛ると食べる前に意欲がなくなります。たんぱく質は気をつけています。水分量は1000ccを心掛けていますが、なかなか飲んで貰えない人には品をかえています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアはもちろん、「歯が痛い」食べたものが口に残る、入れ歯があわないなどあれば歯科受診をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人一人の排泄パターンの把握に努めている。排泄の時間を見るのではなく、落ち着いた様子やみているトイレでの排泄支援をしています。家族のおむつの負担も考え使用を減らすようにしている	利用者の排泄パターンを把握し、時間誘導や利用者の言動や表情から声掛けをしている。また個々の状態に合わせて夜間みのポータブルトイレを使用している。誘導時間の調整でパッド使用量を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューを工夫しなるべく野菜を多く取り入れたり水分補給を十分にし自然に排便できるように支援しているが多くの人は服薬にてコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴となっている。一人一人不安なくゆったりとした気持ではいて頂けるよう1日4名の入浴になっている。必ず一人の職員が最初から最後まで関わっています	入浴の機会は週2、3回ある。皮膚の弱い利用者には弱酸性のシャンプーや石鹸で対応するなど個別対応をしている。また安心して入浴できるように一人ひとりに合わせた声掛けを行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて居室での安静、昼寝、ソファでの休息など支援している。夜間は一人一人に合ったタイミングで就寝支援をしている。見たいテレビがあるときは就寝が遅くなることもある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	社内研修で利用者一人一人の現在服用している薬について効能・副作用について学んだ。新しい薬についてはその都度管理者が利用者の連絡ノートで知らせてくれる。疑問があれば主治医、訪問薬剤師の指導を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味やできることを考慮し植物や金魚の世話、作品作り、買い物、外食等の支援をし、気分転換にも繋げている。ほっとからは花火がきれいに見られるので家族も参加し賑やかに花火大会を鑑賞できました		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に1回バスでの外出を計画しています。今回は名古屋水族館を予定しています。家族も参加されると思います。日常的な散歩や個人的な買い物、近隣の催しへの参加を支援している	近隣の商店街への買い物やポストの投函、神社への散歩等、外出をしている。また家族と外食に出掛ける利用者もいる。年に1回、バスでの遠足行事があり家族と楽しい時間を過ごしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	4名の利用者は自由に使えるお金を所持しており買い物に行く際欲しいものを購入している。時には職員や他利用者にもおみやげを買ってきてくれます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名の利用者は携帯電話を所持しており、自由に家族と話しはできる。その他は要望に応じて職員が家族に伝えるかメールにて電話をかけても良いか聞く。毎年利用者手作りの年賀状を家族に出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には季節の作品を掲示している。南向きで明るく清潔感は大事にしている。玄関には季節の花や金魚を飼育しています。水やりや餌やりは利用者の仕事になっています	共有空間であるホールや廊下等には季節の作品を掲示している。また玄関先に金魚が飼育され、利用者が餌やりを日課にしている。明るいきりびんぐではゆったりとした雰囲気の中、利用者が思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主に日中はフロアで過ごす人が多いです。テーブル席で新聞を読んだり、おしゃべりしたり、テレビを見たりと自由に過ごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	2名の利用者は自宅から馴染みのものを沢山持ってきているが他の人は全体的にすっきりを整理されています。認知があり、物が多いと混乱される人もいます	筆筒など馴染みの家具や日用品などを持ち込んでいるが、全体的に安全に配慮してすっきりとした居室が多い。家族写真や大事な電話番号が壁に貼ってあったり、遺影にゆりの花を供えている居室があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない人には大きく「トイレ」と表示がしてある。居室も同様に自分の名前が大きく貼ってあり分かりやすくなっている。明るく長い廊下には手すりがあり毎日廊下で歩行訓練をしている		